

会員拡大・署名運動を大いに広げつつ 全国大会を迎えよう



和歌山県版
No.391
2024.3.15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
和歌山県本部
☎640-8343
和歌山市吉田102
国労会館2階

FAX : 073 (422) 7076

<https://wakayama.exblog.jp>

email:chian_gisei
sya@yahoo.co.jp



私たちの運動の基本
ふたたび戦争と暗黒政治を許すな

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する法律であったことを認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと。

今年には治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の第41回全国大会が6月に開かれます。

それに当たって中央常任理事会が開かれ、次のように吉田万三会長が挨拶されています。その一部を紹介します。県同盟で常に議論の対象になってきた課題が議論される全国大会(来期は)になる模様です。同盟員各位の活発な議論を期待しています。

「様々な政治的諸課題、5月の国会請願とともに今年には41回全国大会を迎える年です。世界と日本が大きな転換期を迎

える中で、私たち同盟も否応なく転換期を迎えています。具体的に言えば、同盟構成員の大半は戦後の世界を生きてきた世代です。しかし個々人の命は永遠ではありません。次の世代にこの運動をどう引き継いでゆくかを真剣にかんがえるときです。

これまでも『治安維持法犠牲者がゼロになるときには同盟はどうなるか』等々の意見や質問がありました。が、国賠同盟の存在を再定義するときに来ています。来年2025

年は治安維持法発効100年の年です。次の42回全国大会にかけて議論を開始したいと思います。この再定義とあわせ、長ずぎると言われてきた名称も検討の俎上に上がると思っています。」

なお、全国大会議案は『不屈』(中央版)5月号に掲載される予定です。



今年もお願いしました

しんぶん赤旗日曜版へ折込み

1月の和歌山市内3支部の合同役員会での話し合いの中で、現状ではなかなか署名が集まらないということで、共産党に協力をお願いして、しんぶん赤旗日曜版に今年も折込みをしてもらうことになりました。日本共産党の各地区・市郡委員会のご協力のもと、各支部と連絡をとり、読者の方へをお願い文・署名用紙・返信用封筒をセットにし、しんぶん赤旗日曜版に折込みを行いました。

橋本・伊都、那賀、西牟婁の各支部は2月に、海南・海草支部と和歌山市内3支部は3月に実施しました。結果は、2月末現在で、橋本・伊都支部には返信19通・署名62筆・カンパ7千円が届きました。那賀支部には返信14通・署名45筆・カンパ5千円が届きました。西牟婁支部には返信9通・署名36筆が届いています。

5月15日が国会請願日の予定です。さらにご協力をお願いするとともに、

各支部にあっても、もう一筆でも増やせるように頑張ります。

(県本部事務局長 南條佳弘)

ジエンダー平等のために 和歌山市2・11集会ひろく

「建国記念の日」という怪しげな祭日があります。和歌山市の「平和・人権・民主主義2・11和歌山市実行委員会」は、毎年この日を「記念」し抗議の意を込めて2月11日に和歌山市内で集会を開いています。

今年「ジエンダー平等実現のために今後必要なこと」と題して、和歌山大学准教授木村めぐみ氏の講演がありました。我々自身が、性に対して多様な視点を持つことが重要だと述べられました。

財政部よりのお願い

会費をたはつた3月分は、今年度の納入で済ませたいです。活動費は、同盟の根幹です。よろしくお願ひします。

財政部

こだま

「原子炉に生ゴミのある雨月かな」は『原爆句集3』で、安西篤氏の「廃炉詩篇」と題した10句の中の一句です。◆「核のゴミとは、20秒で致死量に達する高い放射線を出し、人間の生活環境から10万年程度の隔離が必要」(2月23日「潮流」という物◆能登半島地震では、能登の志賀原発にも津波が押し寄せるなど危機一髪の状態だった。衆院予算委員会で笠井亮議員(共)は、北陸電力志賀原発の避難計画は、「机上の空論」だと、実態を示して追及した◆2月15日の『しんぶん赤旗』は、福井県の反原発連絡会が行った、核ゴミの処理をめぐる陳情の記事で、増え続ける使用済み核燃料の実態を伝えている◆原発をめぐる深刻な課題・問題が指摘され続けている中で、尚、岸田内閣は古い原発の再稼働や増設をも進めようとしている。本紙に昨年6月から連載の祥賀谷悠氏による、「日置川『原発』のころ」には、紀伊半島に原発建設を計画した関電と、それに反対する地域の皆さんの粘り強い運動が生々しく語られている。「核」はまだ人間がコントロールできないのだ。原発はただちにゼロにするべきである。

《学習の頁》

日置川「原発」のころ

(連載 9)

祥賀谷 悠

30キロ圏内共闘会議やふるさとを守る女の会が結成される

チエルノービル原発の事故により原発反対の世論が高まるもと、86年11月に「日置川原発反対30キロ圏内共闘会議」(和教組、和高校、和解連などの地元組織・団体が中心)が結成され、そして「紀伊半島に原発はいらない関西集会」(原水禁泉民会議、原発反対協)が500人集会を日置川の河原で開催しました。さらに翌87年2月には、「ふるさとを守る女の会」が300人の女性たちで結成されました。

こうした反対勢力の運動の広がり、に危機感を抱いた推進勢力は、2月に日置川町の発展は原発立地にあるとするチラシを全戸に配布し、原発推進を訴えました。さらに、国や電力資本寄りの知識人を招き、講演会や集会を相次いで開きました。反対派と推進派

との対立が激化し、町内には反対と推進の両方の看板が至るところに立てられ、様々な全戸ビラが入り乱れました。情勢が過熱するもとで注目されたのが、88年1月の原発予定地の市江区の区民総会でした。12年前に市江区(70戸)で決議された「原発反対」を白紙撤回させようという推進派の画策でした。区民が下した結果は、撤回反対35、賛成34、白紙1で、一票差で推進派の要望は否決されます。

保守と革新が原発反対の一点で共同し、勝利

局面が大きく転換したのは、88年7月に行われた町長選挙でした。原発推進の宮本貞吉町長に原発反対を掲げて挑んだのは、原発を誘致した森田町政の時代に自民党日置川支部の幹事長を務め、保守派の重鎮を目されていた三倉重夫氏でした。(余談ですが、この時代にわたしも幾度か三倉氏の自宅で話をしました。その時の印象は、誠実な、信念のある、磊落な人というものでした)

東京からも大阪からも10台ほどの

大型中継車が押しかけ、日置川町が騒然となるもとで町長選挙が行われました。自民党は国会議員や県会議員がくり返し現地に入りました。宮本陣営は原発を争点からはずし、「日置川町に和の政治」と訴えました。三倉氏は、「私は町長になりたいと思ったことではないが、原発を阻止しようというみなさんの熱意にうたれ出馬を決意した。原発推進の歯止め役として全力をつくす」と訴えました。選挙結果は、三倉重夫氏が2328票、宮本貞吉氏は1948票。こうして、原発に反対するという一点で集まった保守と革新の共同が原発反対町政を実現させました。

(次号へ)

訃報

井澗 治さん 84歳

西牟婁支部所属、西牟婁郡上富田町在住の井澗治さんが2024年3月4日死去されました

謹んで哀悼の意を表します

『犠牲者名簿』

(第2版)から
(55)古久保 貞子
(ふるくぼ さだこ)

本籍:和歌山県西牟婁郡

1933年4月10日の弾圧で、西牟婁郡田辺町(現田辺

市)で、濱田浩一郎、糸川壽一らとともに検挙される。
田辺貝鉦工組合婦人部所属。

紀のくに歳時記散歩

13

紀のくに和歌山の歴史ある名所・仏閣・碑などを気軽に散策します。

高野山

(4)

木国、虚子の句碑

山門を出でて秋日の谷深し

田村木国

田村木国の句碑は、大門の前の広場に金剛峯寺が、1957年に建てています。

俳人田村木国(「山茶花」の主幸)はかつらぎ町の人で、朝日新聞の記者時代に、「全国中等学
校優勝野球大会」いわゆる
夏の甲子園・高校野球第一
回大会を1915年に、企
画・立案した人として知ら
れています。

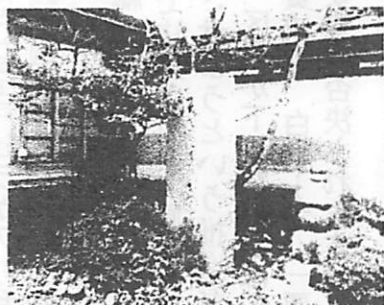
炎天の空美しや高野山

高濱虚子

虚子の句碑は奥の院、休憩所の横にあります。(写真)

卵塔の鳥居やげにも神無月

宝井其角



其角の句碑は、奥の院参道の二筋に分かれるところに、案内の標柱と共にありよくわかります。

増福院には

牡丹百二百三百門一つ

阿波野青畝

英霊殿の近くには

夕焼けて西の十万億土透く

山口誓子

などの句碑もあるとされていますが今回確認できていません。

高野山の句会模様

高野山散策の最初に紹介した、森白象氏の「芭蕉と高野山」の冊子(1970年)では、当時金剛峯寺の主幸で、「ホトトギス」の全国俳句大会をはじめ、「山茶花」・「かつらぎ」・「天狼」等々、多くの結社・同人の俳句大会が高野山で開催されていたことを紹介しています。

2023年は、7月に高野八葉全国俳句大会が開催され、93名が参加したと俳句誌は伝えていましたが、以外の結社・俳句誌の高野山での句会開催の情報には気がつきませんでした。

はこべらや土に食ひ込む女人堂

鍵和田柚子

高野山春たけなわのわらびかな

飯田蛇笏

(参考資料:芭蕉と高野山 普賢院 地名俳枕必携 角川)

(瀬戸 正男)